

五月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

爽やかな風のもと、若葉の緑が陽光に照り映える時節となりました。

心新たに迎えた新年度から一カ月、進学、就職、転勤など変化があったご家庭も、少し落ち着かれた頃でしょうか。

私は、神様の新しい創造のみ業にお仕えさせていただける喜びと希望を、決して忘れないように努めながら、新年度のご神業奉仕に臨ませていただきましたことを、本日のご参拝において、心からの感謝をもって神様にご奉告させていただきました。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教区〇〇布教所の〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、“想念の御用、としての「真善美」配布を実践されているお話をしてくださいました。

先般の「大祭」の折、教主様は、

明主様と共におられる主神は今、私どもを、私どもが困難と感じる状況の中に置いてくださって、少しでも主神ご自身に心を向けさせ、ご自身の思いに触れさせてくださろうとしておられると思います。

と、ご教導くださいました。

〇〇さんは、配布実践での体験が力となって、日常生活の様々な出来事の中で、神様のみ心を尋ね求める心が養い育てられています。

そして、すべてに神様が現れてくださり、私どもを常に天国に迎え入れるお計らいをくださっていることに目覚め、穏やかな心へと導かれています。

私どもも、「真善美」配布を力としつつ、“想念の御用、をもって「会う、聞く、浄霊」をはじめ様々な事柄に臨ませていただき、すべてのものと共に天国に立ち返らせていただくご神業奉仕に、明るく楽しく心裕かにお仕えしてまいりましょう。

さて、私は、全国の信徒の皆さまに、世界救世教の中で起きていることの真実を、「内報」を通じてありのまま、詳らかにお伝えしております。

東方之光(MOA)といづのめ教団小林執行部は、現在も、世界救世教から教主様と④之光教団を排除し、また、いづのめ教団にあって、教主様のご教導を心から求める多くの方々に様々な圧力をかけ、教団の骨格を大きく変質させようとしています。

彼らは、世界救世教「責任役員会」と称して、岡田真明教主補佐に対し、いづのめ教団若手専従者との懇談会においてのご発言が、懲戒規程に該当するという、全く的外れの嫌疑をかけ、審定委員会への出席を通知してきました。今後彼らは、真明様を懲戒解雇処分にし、「真明様を世界救世教から追放した」と主張してくることも十分予想されることでもあります。

世界救世教にとって、事実上の教主継嗣であられ、教主様にとりまして唯一の後継者であられる真明様を無きものにすることにより、彼らはその先に、意の如くなる教主擁立、もしくは、教主制廃止をも画策しているやに思われます。

私どもは、世界救世教「責任役員会」と称する人たちの、^{ごうがんふそん}傲岸不遜とも思える態度を、決して見過ごす訳にはまいりません。

そして、④之光教団内部でも、教団からお手当てを支給されていた名誉職のごく一部の人たちと、3名の布教所長らが彼らと結託し、ご自身の身分保障を取り付けた上で、世界救世教直轄というまやかしの言葉を使い、「聖地直結の会」と称する偽りの会を立ち上げ、④之光教団信徒を誘い込もうとしています。誠に残念でなりません。

世界救世教の憲法とも言える「教規」には、「世界救世教の信者は、『おひかり』を拝受し、各被包括宗教団体に登録された信者又は会員とする」と、明確に定められており、従いまして、「聖地直結の会」に所属することが世界救世教の信徒であるとは規則上認められておりません。

にも拘らず、世界救世教「責任役員会」と称する人たちは、「聖地直結の会」の活動拠点を熱海救世会館の1階に設け、担当役員まで設置し、支援していくことを表明しています。

また、「聖地直結の会」は、現在、④之光教団の布教施設を一カ所不法にも占拠し、銀行に偽りの理由を告げ、布教所の銀行口座名を勝手に変更するなど、全く社会と教団のルールを無視した行為にまで及んでいます。

「聖地直結の会」と称する人たちは、教主様に対して尾行・盗聴・盗撮に及んだ東方之光(MOA)と、その許されない行為を容認し、追随しているいづのめ教団小林執行部の庇護を受け、一体何をしようとしているのでしょうか。

全国の信徒の皆さまには、こうした人たちからの誘いに惑わされることのないよう、くれぐれもお気をつけいただきたいと思います。

先月の「月次祭」にてお伝えしましたように、世界救世教は、平成9年に教団浄化から和解し、その後、包括・被包括体制として進む中で、「教主様のもとに全信徒が一つ心となり、救世主・明主様の御心を求め、その実現に向かって、和合結束して歩み出す」（大経綸12号）ことを、世界中の信徒に表明いたしました。

この「表明」は、偽りの表明だったのでしょうか。

この「表明」を真っ直ぐに受け止め、遵守してきた①之光教団が、何故、包括・被包括関係を解除され、世界救世教から外に出されなければならないのでしょうか。

教主様は、今現在もはっきりと、三教団あつての世界救世教である、と明言しておられます。

私どもは、現在、教主様の神聖な承認行為を蔑ろにし、①之光教団を排除するという、教団の骨格と秩序を破壊する規則変更に対抗する署名活動に取り組んでいます。

全国の専従者、信徒の皆さまのお取り組みのもと、お蔭様にて現在1万名を超える署名をいただき、いつのめ教団有志が取り組まれている約3万名の署名と共に、合計約4万名の署名簿を週明け早々に文化庁に提出させていただきます。ありがとうございました。

私どもは、今後も引き続き5月20日まで更なる署名活動を推進し、今日までにいただいた署名も含めて裁判所へも提出させていただきたく、全国の皆さまには尚一層のご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

さて、私は、現在教団が直面している状況の中で、最も大切なことは、“すべてを統括し、お計らいくださっている神様の方からご覧になったら”という視点に心を向ける営みではないかと、繰り返しお伝えしてまいりました。

そして、一人ひとりが、明主様の真実をより一層お受けし、明主様が人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになった、「全く新しい信仰」を深めていくチャンスとさせていただきたいと、強く願っております。

ところで、「全く新しい信仰」の“新しい”とは、一体何を意味する言葉なのでしょうか。

私は、神様が今、教団の問題を通して、明主様が仰せになった“新しい”ということの真の受け止めを、私ども一人ひとりに教えてくださろうとしているのではないかと存じます。

そして、私は、この神様のみ心をお受けするには、み教えの神髄をひたすら求め、お伝えくださる教主様のご教導が決して欠かせないものであると実

感じております。

私は、世界救世教の信仰にとって“新しい”という言葉が指し示すもの、それは、「夜昼転換」をお受けになった明主様のみ心を、私ども一人ひとりが自らのこととしてお受けすることなのではないかと受け止めています。

明主様は、昭和6年6月15日に「夜昼転換」の天啓をお受けになり、4年後の昭和10年に本教を立教され、闇の世界である「夜の時代」の終焉と、大光明世界たる「昼の時代」の到来を確信をもって宣言されました。

そして、明主様は、「光のお言葉」をもって私ども人類に対して、“神の光のもとに来れと、そして、メシアの御名を奉称せよ、さらば救われん”との旨、お示しになりました。

（「光のお言葉」は、昭和10年、「光明世界」創刊号で発表された明主様の御言葉であり、「メシアの御名」については、平成29年教主様新年ご挨拶参照）

さらに、明主様は、昭和25年に本教を「世界救世(メシア)教」とされ、ご昇天の前年、昭和29年の「メシア降誕」のご事蹟を、人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになりました。

私ども世界救世教の信徒は、こうしたご事蹟をお示しになった明主様に強く結ばれているものであります。

私は、明主様が、「夜昼転換」をお受けになったみ心をもって、こうした一連のご事蹟を通して、私ども一人ひとりにも、「夜の時代」にピリオドを打ち、新しくなりなさいと、今強く迫って来てくださっているのではないかとおぼえていただいております。

ですから、私は、「夜昼転換」を感得された明主様が、「光のお言葉」をもって呼び掛けてくださっているみ心をお受けし、明主様と共にあるメシアの御名にあって、天国に立ち返らせていただくことが、「全く新しい信仰」の道であると固く信じております。

私どもは、教主様のご教導に与り、この天国の道を歩ませていただくことが、“神様の子どもたるメシアとして新しく生まれる”養いをお受けすることに、真っ直ぐに繋がっているものと信じて進ませていただきます。

また、私は、明主様のみ教えやお歌、ご事蹟の受け止めに際して、教主様のご教導を通して、大きく自らの眼を開いていただいたことがあります。

「夜昼転換」も「メシアの御名」も、人類の代表としてお受けになったのは明主様ですが、私は、明主様にお授けになった神様のみ旨を尋ね求める信仰の道を、教主様によって大きく開いていただいたことに、心から感謝申し

上げております。

先般、私どもは、「全国所長専従者会」を開催させていただき、「全く新しい信仰と布教」をテーマとして、学びを共にさせていただきました。

会合の二日目には、教主様が、今の教団状況の中、世界救世教「責任役員会」と称する人たちからの様々な圧力に屈することなく、万難を排してご出席くださり、「全く新しい信仰」について詳しくご教導くださいました。誠にありがたいことと存じます。

私どもは、先般の「春季大祭」において、「開教の辞 世界救世(メシヤ)教の誕生に就いて」というみ教えをいただきました。

明主様はその中で、「霊界における夜昼転換の時期にいよいよ入ったからである」とお述べになり、続けて、「したがって、観世音菩薩のお働きも救世主(メシヤ)のそれとなるのは勿論である」とみ教えくださっています。

さらに続けて、「昼の文化の建設が開始されるのである、このごとき空前絶後の一大転機とは、何を指すのであろうか、全く何千年否何万年以前より決定していた神のプログラムなのである」と仰せになっています。

そして、このみ教えの最後は、「したがって救いの力も決定的でなくてはならない、その力こそメシヤの揮わせらるる大神力である。嗚呼、慶賀すべき時とはなったのである」と結んでおられます。

また、本年2月の「教祖祭」にいただいた「新宗教と世界の年齢」というみ教えでは、明主様は、本教の真髓について、「既成文化の観念をもってしては容易に掴みえないのは勿論であって」とお述べになり、そして、「太初すでに創作された神のテーマ通り展開されんとするのである」と仰せになっています。

教主様は、こうしたみ教えに触れられ、世界救世教にとって“新しい”ということについてご教導くださいました。

私は、教主様のご教導を繰り返し学ばせていただく中で、私どもにとって“新しい”とは、“これから……”ということではなく、神様の創造の初めから私どもの中にプログラムされていたことを思い出すことであるとの全く新しい認識を、強く持たせていただきました。

私は、私の中に、「夜昼転換」と「メシヤの御名」に込められた赦しを、初めから置いてくださっていた神様の親心を全く知ることなく生きてまいりました。

このように、“親の心子知らず”の姿であったにも拘らず、こうしてお使いいただいていることを思う時、私は、自らのうちにお受けしていた神様の赦しの大きさの一端に触れさせていただき、そのありがたさと申し訳なさりと畏

れ多さにまたひとつ目覚めさせていただきました。

ですから、私は、明主様からの天国への呼び掛けとも言える「光のお言葉」をお受けしているものとして、「祈りの言葉」を中心とする“想念の御用”をもって、「夜昼転換」を全人類と万物と共にお受けになった明主様のみ心にお応えさせていただき決意を、今新たにさせていただいております。

明主様は、「諸人の心の岩戸開くれば此世の闇は打消ゆるらむ」とお歌にお詠みになり、私どもが心の岩戸を開きさえすれば、私どもの中心にはすでに、大光明燦然と輝く光が到達していることを、み教えくださっているのではないのでしょうか。

私どもは、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を中心とした日常生活の様々な事柄に際して、“想念の御用”をもってお仕えさせていただき「全く新しい信仰」の道が、私ども自身の「夜昼転換」であり、“心の岩戸開き”であると信じて、感謝と希望を胸に嬉々として歩ませていただきました。

最後に、今月4日には、大阪において、「教主様ご巡教・全国信徒大会」が開催されます。

「地上天国祭」を前にして、全国の皆さまと共に大会に臨ませていただき、「夜昼転換」と「メシヤの御名」に込められた明主様のみ心をより一層お受けさせていただき「全く新しい信仰」に、ご一緒に努めさせていただきます。

「教主様ご巡教」をお許しいただき今月度の皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう、お祈り致しております。

ありがとうございました。